

施策評価シート（平成27年度の振り返り、総括）

作成日 平成28年 07月 06日

施策 No.	11	施策名	文化財の保護と継承
主管課名	文化課	電話番号	0285-83-7731
関係課名	生涯学習課		

施策の対象	国・県・市の指定文化財及び登録文化財								
対象指標名	単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度実績	31年度見込
指定文化財及び登録文化財数	件	230	227	227	227	227	227	228	240

施策の意図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財を適切に保存管理し次の世代へ引き継ぐ。</li> <li>・身近な文化財に親しむことで郷土の歴史や文化について理解を深めるとともに、「文化財の保護と継承」の普及啓発を行い豊かな心を育む。</li> </ul>								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法（算定式など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の文化財の保護については、毎年度末の指定及び登録文化財件数を指標とする。</li> <li>・文化財の継承については、指定無形民俗文化財保存団体の構成員数を指標とする。</li> <li>・文化財に興味や関心を持つ市民については、歴史教室参加者数を指標とする。</li> <li>・文化財を保護する市民の割合は、市民意向調査を指標とする。</li> </ul>								
成果指標名	単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度実績	31年度基本計画目標値
指定文化財及び登録文化財数	件	230	227	227	227	227	227	228	240
指定無形民俗文化財後継者数	人	169	171	169	206	192	185	195	200
歴史教室延べ参加者	人	455	487	502	578	580	343	705	600
文化財を大切にしたいと感じる市民の割合	%	95.4	92.3	92.4	93.3	92.0	92.8	91.2	95.0

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財所有者（管理者）及び保存団体は、文化財を適切に保存管理するとともに市民に公開するため必要な事業を行う。</li> <li>・市は、文化財所有者（管理者）及び保存団体が実施する保存管理や公開の事業について指導助言し必要に応じて事務手続き等を支援するほか、歴史教室などを開催し文化財の保護や啓発の機会を提供するための環境を整備する。</li> <li>・市民は、身近な文化財に触れることで郷土の歴史や文化への理解を深め、文化財を保護継承することの大切さを認識する。</li> </ul>								
-------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

（１）施策成果の時系列比較（過去３年間の比較）

・指定文化財については、平成２１年の二宮町との合併により文化財が２３０件となった。平成２２年度に滅失や倒木の為３件を指定解除した。平成２３年度は２件指定解除、２件指定を行った。平成２４年度及び平成２５年度は指定解除・指定に変更はなかった。平成２６年度は２件指定解除、２件指定を行った。平成２７年度は１件の登録文化財を登録した。

・無形民俗文化財後継者については、保存団体が熱心に育成活動を行っていることで中学生の後継者が増加していたが、近年は、横ばい傾向にある。

・歴史教室への参加者はここ数年増加傾向であるが、例年６回開催しているところ、平成２６年度の開催が３回だったため、参加者数は減少した。平成２７年度は６回開催し、参加者数は７０５人であった。

・平成２２年度から２５年度までの３か年をかけて、史跡専修寺境内三谷草庵（仏堂・廊下）の保存修理工事を実施し、伽藍を明治３３年の「下野高田山名所図絵」の姿に復原した。市は修理のための補助金を交付した。

（２）近隣他市との比較

・本市の指定文化財件数は、県内１４市の中で６番目に多い。

・文化財に興味や関心を持つ市民の割合などについては、近隣市町村での調査が行われていない為、比較することは困難である。

（３）住民期待水準との比較

・平成２７年度の市民意向調査では文化財を大切にしたいと感じている市民の割合は、９１．２％であり、ここ数年９０％を超えた数値で推移するなど、市民の文化財愛護に対する意識は高い。これは、文化財を活用した事業の実施のほか、歴史教室や文化財めぐりなど、郷土の歴史や文化財を理解する為の啓発事業を継続していることも大きな要因といえる。

27年度の  
評価結果

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

・平成２７年度は、１件の登録文化財（久保記念館）を登録した。

・無形民俗文化財保存団体には補助金を交付し、団体を支援するとともに後継者の育成に努めた。

・郷土の歴史や文化財に対する市民の理解を深めるため、文化財めぐりを２回実施したほか、歴史教室を６回開催した。

・文化財愛護や保存に対する市民の意識高揚のため、国の登録文化財である久保講堂を活用し市民の芸術文化活動の成果を展示公開した。岡部記念館「金鈴荘」については、震災で被災した建物を平成２４年度に修復し、平成２５年４月から一般公開を再開している。

・国指定史跡である桜町陣屋跡の適切な保存と活用を図るため、地域の諸団体と公募による一般参加者が協力して江戸時代に近い米作りを行う体験型の文化財活用事業を実施した。

### 3. 施策の課題認識と改革改善の方向

#### 課題認識

- ・指定文化財の保存管理や修理に要する経費負担が大きいため補助金の増額の要望が多い。
- ・無形民俗文化財後継者は、少子化や価値観の多様化、地域コミュニティの希薄化が懸念されるが、近年は、横ばい傾向にある。
- ・郷土の歴史や文化財に対する市民の理解を深めるために実施している文化財めぐりや歴史教室の参加者が増加していることから、文化財に対する市民の関心は高いと思われる。

#### 改革改善

- ・指定文化財の計画的な修理を行うため、所有者（管理者）と連携し国や県への予算要望段階から指導支援していく。
- ・無形民俗文化財の後継者対策としては、団体に対して補助金を交付するなど団体を支援するとともに後継者の育成を図っていく。
- ・文化財めぐりや歴史教室は、郷土の歴史や文化財を理解するため有効であることから、今後も参加者アンケートなどを参考として内容を充実していく。

27年度の  
評価結果

#### 補足事項

##### 県内14市の文化財数

（平成27年度末現在：指定文化財、登録・認定文化財含）

・宇都宮市	483件
・足利市	488件
・栃木市	295件
・佐野市	251件
・鹿沼市	196件
・日光市	518件
・小山市	150件
・真岡市	228件
・大田原市	199件
・矢板市	116件
・那須塩原市	170件
・さくら市	212件
・那須烏山市	174件
・下野市	105件